

事例番号:330052

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 9 週 血液検査で風疹抗体 75IU/mL(ラテックス法)

妊娠 27 週- 超音波断層法で胎児頭蓋内に異常所見あり、胎児発育不全を認める

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 34 週 1 日

時刻不明 妊婦健診のため受診

10:44-10:49 超音波断層法で胎児徐脈を認める

時刻不明 胎児発育不全のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 34 週 1 日

18:27 胎児機能不全の診断で帝王切開にて児娩出

分娩後 1 ヶ月 血液検査で風疹ウイルス 256 倍(HI 法)、風疹ウイルス IgM(±)

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:34 週 1 日

(2) 出生時体重:1700g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.28、BE は不明

(4) アプガースコア:生後 1 分 4 点、生後 5 分 6 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(ハック・マスク、チューブ・ハック)、気管挿管

(6) 診断等：

出生当日 腹部および心臓超音波断層法で肝脾腫、動脈管開存を認める  
生後 1 日 血液検査で新生児播種性血管内凝固症候群、新生児血小板減少症を認める  
生後 7 日 血液検査で風疹ウイルス IgM 高値  
生後 12 日 両眼先天白内障と診断  
生後 16 日 先天性風疹症候群と診断

(7) 頭部画像所見：

生後 5 日 頭部 CT で後角優位の脳室拡大、両側側脳室周囲および小脳に石灰化を認める  
生後 2 ヶ月 頭部 MRI で後角優位の脳室拡大、両側大脳白質の広汎な信号異常を認め、大脳基底核・視床に明らかな信号異常は認めない

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分：病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師：産科医 2 名、小児科医 2 名、麻酔科医 1 名、研修医 1 名

看護スタッフ：助産師 1 名、看護師 2 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

脳性麻痺発症の原因は先天性風疹症候群を発症したことである。

**3. 臨床経過に関する医学的評価（2020 年 4 月改定の表現を使用）**

**1) 妊娠経過**

妊娠中の管理、および胎児異常を疑い、胎児発育不全に対する精査を行ったことはいずれも一般的である。

**2) 分娩経過**

- (1) 胎児機能不全の診断で帝王切開術の方針としたことは一般的である。
- (2) 昼頃帝王切開の方針とし、超音波断層法、分娩監視装置装着にて経過観察し、夕方児を娩出したことは選択肢のひとつである。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析（「原因分析に係る質問事項および回答書」による）を実

施したことは一般的である。

(4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、チューブ・バッグによる人工呼吸)、および当該分娩機関 NICU に入院管理したことはいずれも一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 今後は胎児心拍数陣痛図を5年間保存しておくことが望まれる。

【解説】本事例は、一部の胎児心拍数陣痛図が保存されていなかった。「保険医療機関及び保険医療養担当規則」では、保険医療機関等は、医療および特定療養費に係る療養の取り扱いに関する帳簿及び書類その他の記録をその完結の日から3年間保存しなければならない。ただし、患者の診療録にあっては、その完結の日から5年間とするとされている。胎児心拍数陣痛図は、原因分析にあたり極めて重要な資料であるため、診療録と同等に保存することが重要である。

(2) 胎児心拍数陣痛図の判読所見を診療録に記載することが望まれる。

【解説】本事例は一部の胎児心拍数陣痛図の判読所見が記載されていなかった。観察事項や妊産婦に対して行われた処置は詳細に記載することが重要である。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】児が重度の新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

先天性風疹症候群の予防のための妊娠初期のスクリーニング法についての検討

が望まれる。

【解説】本事例は妊娠 9 週のラテックス法による風疹抗体は 75IU/mL (HI 抗体価 64 倍換算) で通常問題なしであったにもかかわらず先天性風疹症候群を発症した。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。